

第9回歩行解析産業研究会

「フレイルの予防に向けた技術とサービスの社会実装に向けて」 開催のご案内

産業技術総合研究所四国センターでは、ヘルスケア・医療に関係する企業や大学の皆様のご協力もいただきつつ「ヘルスケア・医療産業創出プラットフォーム」を整備してきました。補正予算事業で大幅に強化された身体動作計測関連施設と、身体機能や健康状態に関する情報を幅広い製品応用や事業化に向けて活用するための議論の場である「歩行解析産業研究会」はその中核となるものです。

このたび、**第9回歩行解析産業研究会**を開催することとなりましたのでご案内申し上げます。今回の研究会では、「フレイルの予防」をメインテーマとし、企業、大学、産総研の研究者から、それぞれの立場での取組を紹介いたします。デモや体験も予定しております。また、企業どうしを含む新たな事業・研究連携に向けた情報交換セッションを予定しております。講演会の後には、個別の情報交換に向けた懇親会もありますので、今後の新たな研究・連携の取組を検討する機会と捉えていただき、多くの方のご参加をお待ちしております。

記

【日時】令和6年7月22日（月）13:00～16:55 ※終了後、懇親会（会費500円）

【場所】①**産総研四国センター**（香川県高松市） ②**Web会議システム**
によるハイブリッド形式で実施予定（申込時に選択ください）。
※席に限りがございますので、お早めにお申し込みください。

【主催】四国工業研究会

【共催】産業技術総合研究所四国センター

【プログラム】

13:00 開会挨拶

13:05～13:45（講演25分、**スマホによる歩行測定デモ**10分、質疑5分）

「花王の歩行研究と応用」

花王株式会社 ヒューマンヘルスケア研究所

須藤 元喜 氏

13:45～14:25（講演25分、**コグニサイズ体験**10分、質疑5分）

「高齢者フレイル対策の現状と課題～自治体の高齢者介護予防委託事業を通じて見えてきたこと～」

株式会社エーカオ

代表取締役社長 安部 武矩 氏

14:25～14:55（講演25分、質疑5分）

「抗加齢予防医療センターにおけるフレイル予防関連研究」

愛媛大学大学院医学系研究科抗加齢医学（新田ゼラチン）講座教授

医学部附属病院 抗加齢・予防医療センター長（兼任）

伊賀瀬 道也 氏

14:55～15:20 **休憩（エーカオ：**動画によるかけっこ診断体験**予定 ※雨天時はパネル展示のみ）**

15:20～15:50（講演25分、質疑5分）

「歩行・走行時に生じる衝撃は、脳機能を制御する」

産業技術総合研究所 生命工学領域 健康医工学研究部門 研究員 崎谷 直義 氏

15:50～16:20（講演25分、質疑5分）

「筋肉からのメッセージ」

産業技術総合研究所 生命工学領域 健康医工学研究部門 主任研究員 土屋 吉史 氏

16:20～16:50 総合討論

16:50～16:55 閉会挨拶

16:55～18:30 懇親会

(申込先)<https://zoom.us/meeting/register/tJlkdeivqTotHtbEcW9jUPun4tfYgPnPj9xB>



(申込期限) 令和6年7月18日(木) ※会場参加のみ期限を設けさせていただきます

講演概要

「花王の歩行研究と応用」

花王株式会社 ヒューマンヘルスケア研究所

須藤 元喜 氏

【概要】

花王の歩行研究について、開始のきっかけから現在にいたるまでを包括的に紹介します。未病領域の普通歩行に着目し、老年症候群や行動体力及び印象について研究し、歩行支援サービスやスマートフォンでの歩行モニタリングアプリを開発しました。さらに、歩行関連のデータを活用したフレイル対策についても紹介します。

スマホによる歩行測定デモ

「高齢者フレイル対策の現状と課題」

～自治体の高齢者介護予防運動教室 委託事業を通じて見えてきたこと～

株式会社エーカオ 代表取締役社長

安部 武矩 氏

【概要】

弊社は、2013年より各市町村自治体様より委託を受け、介護予防運動教室事業を実施しており、月間で約2,000名の高齢者の方に指導を行っています。自治体様としては、体操することで高齢者が元気で“医者いらず”となり、膨大な医療費を抑制したいという狙いがあります。自治体様や弊社が感じている課題や今後の展開を赤裸々にお話いたします。

運動・かけっこ診断体験

「抗加齢予防医療センターにおけるフレイル予防関連研究」

愛媛大学大学院医学系研究科抗加齢医学（新田ゼラチン）講座教授

医学部附属病院 抗加齢・予防医療センター長（兼任）

伊賀瀬 道也 氏

【概要】

われわれが2006年から行っている「抗加齢ドック」は、癌の早期発見や生活習慣病の兆候を見つけるための通常の「人間ドック」とは異なり、より前段階（未病）から自分の体の老化度を把握することのできるシステムです。脳年齢、血管年齢、筋年齢、骨年齢、ホルモン年齢の5項目を中心におこなう検査項目のデータを用いて現在までフレイル予防につながる研究を展開しています。

「歩行・走行時に生じる衝撃は、脳機能を制御する」

産業技術総合研究所 健康医工学研究部門 崎谷 直義 氏

【概要】

歩行や走行の際、足の接地により生じる地面からの反力は全身に伝播し、身体各所には力刺激が加わります。この力刺激が、骨や筋肉、関節などの恒常性維持に働くことは以前から知られていましたが、脳機能制御における、その意義は不透明でした。本講演では、我々が見出しつつある、歩行や走行時に生じる脳への衝撃が、脳機能を制御するメカニズムについて概説します。

「筋肉からのメッセージ」

産業技術総合研究所 健康医工学研究部門 土屋 吉史 氏

【概要】

適度な運動が健康の維持増進に寄与していることは知れ渡っているものの、どのような分子挙動によりその効果が得られているかはあまり知られていません。本講演では、こうした効果がどのように得られているのかを個体・細胞レベルから体系立ててお話ししたいと思います。

<お問合せ先> 産総研四国センター 産学官連携推進室
E-mail s-renkei-jimu-ml@aist.go.jp
TEL 050-3522-4589